

# みどりの風

2014  
秋号  
human medical

## 病院理念

地域住民の健康管理のために、  
地域医療の質と医療人の質のたゆまぬ  
向上を目指す。

## 基本方針

1. 安全な医療の提供と地域連携により、  
地域医療の充実に努めます。
2. 更なる知識と技術の習得に努め  
信頼される医療人を目指します。
3. 他部門との信頼関係に基づいた協働を図り、  
病院運営に積極的に参画します。

## 患者さまの権利と責任

1. 患者さまは、自身の生命、身体、  
人格を尊重され、適切な医療を受ける  
権利を有します。
2. 患者さまは、病気や治療などに関する  
一切の事について、プライバシーを保護される  
権利を有します。
3. 患者さまは、自身の病気について  
十分な説明を受け、治療に際して自ら選択、  
決定、或いは拒否する権利を有します。
4. 患者さまは、医療従事者と力を合わせて  
医療に参加していく責任があります。
5. 患者さまは、他の来院者の権利を尊重する  
責任があります。

## CONTENTS

- P2 鹿児島県医師会会長賞「看護業務功労」  
田代中学校職場体験学習
- P3 平成26年度集団災害対策訓練・防火訓練
- P4 平成26年度鹿児島大学医学部地域推薦卒医学生実習
- P5 鹿児島大学保健福祉学部、今村学園感想文  
託児所だより
- P6 職員接遇研修会  
糖尿病の基礎と臨床に役立つ知識  
新入職員紹介
- P7 老健施設「みなみかぜ」より

## 外来受診に関するお知らせ 完全紹介予約制

当院の外来は「完全紹介予約制」となっております。初診の方は、他の医療機関(かかりつけ医)などからの紹介状が必要となります。また受診の際は、事前に予約をお取りください。

※泌尿器科、整形外科、眼科は予約のみで受診できます。

### 予約に関する電話受付時間

月～金曜日 午後2時～5時

土曜日 午前9時～12時

## 肝属郡医師会福利厚生施設 マンション入居のご案内

※公的機関に従事する方、錦江町又は南大隅町の医療・介護関係事業所に従事する方を対象に入居の案内をしています。

住 所：錦江町神川175-3 (当院の隣です)

間取り：1K(バルコニー付)

築年月：平成4年2月(3階建)

家 賃：30,000円(敷金なし・管理費、共益費含む)

くわしくは総務課企画係まで  
(内線1222)

## 生活習慣病予防&改善相談

受 付：地域医療室(売店となり)にて

内 容：血圧測定・体脂肪率測定・血液検査(希望者)(食事を摂られてもかまいません)管理栄養士、保健師による病気予防と改善のためのアドバイス

費 用：無料ですが、血液検査を希望の方は血糖・150円、脂質(コレステロール、中性脂肪)・300円をご負担いただきます。

対象者：どなたでもお気軽にお越しください。

### 高脂血症・糖尿病

10/18(土) 10時～ 11/15(土) 10時～

12/20(土) 10時～

管理栄養士、保健師による病気予防と改善のためのアドバイス

## 個人フォローアップ健診

生活習慣病の予防には生活改善のバロメーターとして定期的な健診が大切です

期 間：申込日より6ヶ月

頻 度：1ヶ月、2ヶ月毎に実施

項 目：糖尿病、高脂血症

内 容：血液検査や体脂肪率測定、結果説明、健康アドバイス等

費 用：糖尿病900円/回 高脂血症500円/回

受講対象：一般、地域住民の皆様

受講受付：当院 地域医療室

担当：保健師までTEL.0994-22-3111

## 病院稼働状況

	8月	4～8月	月平均
外来患者延数	2,145	10,916	2,183
(1日平均)	69.2	71.3	—
新入院患者数	78	376	75
退院患者数	79	374	75
月末在院患者数	168	839	168
在院患者延数	5,213	25,837	5,167
(1日平均)	172.0	168.9	—
平均在院日数(一般病棟)	20	18	—

## 職員募集

### 常勤医師【募集診療科】

内科(一般、呼吸器、循環器、消化器、リハビリ)  
外科・整形外科・眼科

看護師・看護補助者(パート可)・施設管理  
臨床検査技師(パート可)・言語聴覚療法士  
調理師(契約、パート)・診療情報管理士・薬剤師

詳細については総務課庶務係までご連絡下さい

TEL.0994-22-3111 内線：1220

シンボルマークについて



肝属郡医師会立病院

地域住民の皆様と地域の医療従事者を、平和と安寧の象徴である二羽の鳩で表し、共に協力しながら空高く飛翔するさまをデザイン。

肝属郡医師会立病院の頭文字をエンドレスイメージでデザインしたKマークは、地域医療の中核病院として地域医療を支え健やかで暮らしやすい地域づくりを目指して永遠に伸びゆくさまを表しています。

## 編集後記

朝夕はめっきり涼しく、過ごしやすくなりましたが、皆様もお変わりなくお過ごしでしょうか。秋は、祭りや運動会などの行事も多く賑やかな季節です。「食欲の」「スポーツの」「読書の」「芸術の」など、さまざまな言葉が冠されます。今年の私は、さまざまに秋に対し、目標を立てて過ごしたいと思います。旬の食べ物(さんま、鮭、なす、リンゴ、なし)を食し、週に2回の運動(ゴルフを含む)、月に2冊の読書(活字)、家族と紅葉(霧島)やコスモス(霧島ヶ丘)、イチヨウ(千本銀杏)を観てまわることを目標にし、秋を満喫したいと思います。

季節の変わり目で体調を崩しやすい季節です。皆様のご健康をお祈りいたします。



# 鹿児島県医師会会長賞 看護業務功労

6月21日(土)鹿児島県医師会功労者表彰が鹿児島市内でありました。これは鹿児島県内の会員医療機関において25年以上看護業務(保健師・助産師・看護師・准看護師)に就業しており、かつ顕著な功績のあった方が受ける表彰です。  
当院では看護部で3名が受賞し、表彰を受けました。入職から今までの経過・学んできた事・苦労話などを頂きましたので、ここにご紹介いたします。



3階病棟  
竹井 美鈴

**感謝**  
このたび、地域医療に貢献したという事で、鹿児島県医師会功労者表彰をいただきました。推薦していただいたことに感謝を申し上げます。

思えば当時の院長の「崩壊寸前の地域医療を立て直す」という設立理念に感激し就職しました。あれから30数年が経過しました。耳鼻咽喉科外来、内科病棟、整形外科病棟、手術室、外科病棟、療養病棟から回復期病棟など、様々な看護を学び、看護とは何かをずいぶん考えてまいりました。看護師という職業は本当に幅が広く奥が深いものです。人間相手ですので答えがありません。答えがないから長い間その答えを探し続けていくのかもしれない。また、今までこの職業を続けてこられたのは、患者様の退院されるときの笑顔が忘れられないこと

と、皆様の支えがあったからこそだと思えます。  
今後も皆様のご支援をいただきながらより良い看護の提供に努めてまいりたいと考えております。今後ともどうぞよろしくお願ひ致します。



泌尿器科外来  
桑原 久子

## 感謝

出産後、再就職して外来でお世話になりました。25年6か月過ぎました。  
ただただ皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。

外科外来11年。紙カルテ時代、患者さんも多く、外科医師も5名でオベも毎日慌ただしく過ぎていきました。中でも私にとって大事だったのは、電子カルテに変わったときでした。「パソコンは苦手だ、どうしよう...」でも、「何とかなる」と家に帰り家事

を済ませ、再度病院で練習した事は今では大変な思い出として残っています。  
自分も年を取り、外来患者さんも高齢化して、排尿障害など尿で困る人の手助けが少しでもできたらいいなと思います。  
時々「まだおいやっ」と声をかけられますが、懐かしいとともに嬉しい限りです。色々と変化してゆく中、不安もあります。が、体調と相談しながらもう少し頑張りたいなと思います。



2階病棟  
東 照子

## 私の原点

早いもので、あれから30年たったのだと我ながら驚いています。

初めての配属先は眼科外来でした。眼科は検査が多く、実習以外経験もなく迷惑をかけたばなしの毎日でした。慣れてきた頃、患者様の眼鏡調整に苦労しました。その時先生が検眼鏡を私にかけさせ、レンズを変えて「見えるね」と聞かれ「見えません」と答えると「患者様はその状態なんだよ。気持ち分かってあげて。」という一言に患者様の立場になって検診をする事の大切さを身にしみて感じました。「データだけに頼るのではなく、患者様の気持ちを大事にする。」という先生の教えは今でも忘れられません。これまで、つらいと思ったことも、今では良い思い出です。

家族や周りの方に支えられ、今日まで仕事をすることが出来たのだと感謝しています。これからも体調と相談しながら頑張っていこうと思っています。

## 田代中学校 職場体験学習

去る7月2日〜4日、錦江町立田代中学校の生徒さん1名が職場体験学習を行いました。御礼を兼ねた感想文をいただきましたので、ここにご紹介させていただきます。

肝属郡医師会立病院のみなさま

錦江町立田代中学校 3年1組

尾長谷 琴美

皆様いかがお過ごしでしょうか。先日はお忙しい中職場体験をさせて頂き、ありがとうございました。職場体験学習を通してオムツ交換や拭きが大変でしたが、とてもやりがいのある仕事だということを感じました。

また患者さんとの交流も大変だったということに気付かされました。うれしかったことはたくさんありますが、その中で一番うれしかったのは、体拭きや机ふきなどでみなさんのお役に立てたことです。

この体験で学んだことを無駄にせず、少しでもこれからの自分に生かせるように一杯努力していきたいと思えます。3日間ありがとうございました。



## 平成26年度 集団災害事故対策訓練

平成26年度集団災害事故対策訓練が9月10日（水）錦江町役場駐車場で行われ、錦江町役場、錦江町消防団、錦江警察署、大隅肝属地区消防組合、肝属郡医師会、肝属郡医師会立病院の6機関が参加しました。



この訓練は、救急医療週間事業の一環として、多数の傷病者が発生した場合に地域の医療機関や関係機関の連携を図りながら、総合的な情報伝達、救護体制を確立し、併せて住民の皆様に救急医療や救急業務に対する理解と認識を深めていただくことを目的として実施されました。

訓練は、地震による大津波警報が発令され、避難場所に住民が待機をしていたところ熱中症等により気分不良を訴える傷病者が多数発生、また倒壊家屋内には数名の負傷者がいるという想定で、各関係機関が協力して救助にあたりました。

訓練後には濱畑クリニックの濱畑院長による講話「熱中症について」「ロコモティブシンドローム」(\*)があり、多数の方にご聴講いただきました。

※ロコモティブシンドロームとは…

運動器の衰え・加齢や生活習慣が原因といわれる障害によって、要介護になるリスクが高まる状態になること。日本整形外科学会が2007年に提唱し、予防啓発を行っている

## 平成26年度 防火訓練(夜間想定マニュアル訓練)



平成26年7月14日、防火訓練（夜間想定マニュアル訓練）を実施しました。

夜間の限られた職員だけで出火区画避難限界時間11分以内でいかに早く、安全に避難することが出来るかが重要となります。今回は、大隅肝属地区消防組合南部消防署隊員の協力を頂き、4階病棟女子トイレを火元に設定し、職員の模擬患者と毛布のダミーを使用し、東棟と西棟に分かれ出火場所より近い部屋から順番に防火区画外までの避難を行いました。避難完了まで12分弱の時間を要し限界時間を超過しましたが、訓練の重要性を再認識することが出来ました。新入職員は訓練終了後、消火器による消火訓練を行い、消火器の使用手法や手順を体験しました。

反省点としては、①サイレン鳴動時の職員の声が聞こえない、②部屋から出る時に廊下避難者と衝突しそうになる、が挙がりました。マニュアルの変更追加事項として、当直室（本部）で各病棟の患者救護区分（担送、護送、独歩）の人数が把握できるように見直し、消防隊員が到着時に適切な現状報告ができるように変更しました。

今後も患者様の安全を守るために職員が防火について意識し「火の用心」を怠らないことが重要だと思います。

## 8月18日～21日にかけて、 平成26年度鹿児島大学医学部地域 推薦枠医学生実習に2名の学生が来られました。

実習の主な目的は、へき地医療の現場を体験し、地域医療のロールモデルの1つとして地域医療体制と現場における医師の役割を学習することで、当院の医療現場や地域医療の現状・当院の取り組みなど紹介させていただきました。



鹿児島大学医学部医学科1年  
廣谷 侑慶(肝属コース)

### 実習1日目

最初に、根路銘先生と同じ地域枠の3年生福澤豪さんと肝属郡医師会立病院の院長、落司孝一先生の話聞いた。話の内容は、肝属郡医師会立病院が設立された経緯と現在の錦江町、南大隅町の医療の現状について聞き、開業医を受診した患者さんを紹介された肝属郡医師会立病院に紹介され、症状が安定したら在宅に移行される。医師不足のため完全紹介型での診療が中心となっており、専門医が全ての科でいるわけではなく眼科などは週に2日他の病院から先生がやってくる。

この話で感じたことは、とりあえず近辺に医師が少ないということだ。入院患者が多いため、医師以外の人の働きに頼っている所がかなり大きいと思った。特に、看護師の数は多く、看護師には負担が大きいのしかかっているようだった。また、昔の話を聞いてみると医師の数は多かつたらしく、時代とともに医師の数が減少していき、そのためこの病院の担う役割が変わっていったのだと思った。このように一言で病院といっても、地域の現状に応じて色々役割が変わってくるのだと思うた。

その後、病院の中を案内してもらった。医師や看護師だけでなく、作業療法士や理学療法士、言語聴覚士がおられ、半身麻痺の患者さんが摂食訓練をしている様子を見せてもらった。その様子で、自分が思っているような病

院の仕事だけではなく、医師にはできないようなことを多様な職種の方が連携して助け合いながらやっているのだと実感した。さらに入院患者さんを含めてほとんどが80歳以上だと聞いて驚いた。

午後からは、病院の中で起きた問題についての会議に同席させてもらった。自分は最近バイトを始めたのだが、ミスばかりで先輩に怒られてばかりである。責任ある就職先でさえミスが起きてしまうのは珍しいことではない、と仰つてとても意外だった。今のうちから責任の大きさに関わらず正確に仕事をこなせるようにしなければならぬと思った。

### 実習2日目

この日は大泊診療所に行つて、診療の様子を見学させてもらった。9時から診療開始なのに、8時半頃からお年寄りが診療所の中で待っていた。遠くの地区からも診療所に来られるようにバスが出ているということだった。

この地区で大泊診療所がどれだけ重要視されているかが伺えた。また、患者さんのご家族の方に連絡が取れるように電話番号が書かれた紙が受付の所に置いてあり、このことから、診療所に来るのはお年寄りが多く、お年寄りに対する配慮が至る所になされているのだと思った。また患者さんたちは他の人とたくさん話をしている、診療所が地域の皆さんのコミュニティの場になっていると思った。

大泊診療所の上村先生が「こういう診療所で仕事していると、ほとんど家

族のような人達が増えていく。またその場のデータだけでなく、患者さんを取り巻く背景を考慮した上での判断ができる。が、だからこそ大変なことも多い。」と仰つていて、そういうところが僻地・離島で医療をする魅力であり、苦勞しなければならぬことなのかなと感じた。



鹿児島大学医学部医学科3年  
福澤 豪(肝属コース)

8月18日から21日まで私たちは大隅半島、特に南大隅の肝属郡医師会立病院と大泊・郡診療所に実習に行きました。

医師会立病院では外来の見学、透析のシャント作成の手術などを見学させてもらいました。医師会立病院がある地域は、県内の中でもトップの高齢化率をもつ地域に属しており、外来や入院の患者様はほとんどが高齢者の方でした。外来では週一回の物忘れ外来という認知症の専門外来があり、それも見学しました。物忘れ外来では今隈先生が診察をしており、患者様の緊張をほぐすために世間話から会話をはじめるなどの工夫が見られました。

自治医科大学卒の上村先生が院長を務める大泊診療所では、診察を見

者様とお話をさせていただきました。患者様はみんな高齢者の方ばかりであったが、皆さん声も大きく元気でいた。時々方言でわからない言葉もあったけれど、それも含め地域独特なものがありとてもいい点だなと感じました。特に上村先生が大泊にいらっしゃることに安心感は大きく、とても助かっているとのことでした。郡診療所では上村先生の診療訪問の見学をさせてもらいました。訪問診療のお宅では、私たち実習生も温かく迎えて頂き、家にいることで体調が落ち着いて穏やかな雰囲気のある患者様・ご家族を見ると、こちらも嬉しい気持ちになりました。診療所でも訪問診療先のお宅でも上村先生は地域の方々から頼りにされていて、また愛されている姿を見ると私も将来上村先生のような医師になりたいと思えました。

3日目に開いていただいた懇親会では医師会立病院の先生方や上村先生と「なぜいま大隅で働いているのか」など様々な話をする事ができ、これも貴重な経験になりました。

今回の実習では行く先々で「良いお医者さんになって、よかつたらここ大隅にも来てね」と言われ、私は期待されてここにいらんだなと改めて感じ身が引き締まる思いでした。これからもっと志を高く持つて医学を学んでいきたいと思えました。たくさんの方々協力して頂きこのような素晴らしい体験をさせて頂いたことに感謝します。

8月28日、

鹿児島大学医学部保健学科看護学生の方  
8名が当地域の在宅医療や認知症の  
取り組みを学びに研修に来られました。

錦江町、南大隅町の  
在宅医療、認知症の

取り組みを学んだ感想

南谷 陽子

この研修を通じて錦江町、南大隅町の現状や取り組み、課題がわかりました。マンパワーが足りない中で在宅医療を充実させるには多職種と連携し、柔軟に対応することが必要で強い連携、柔軟な対応をするために顔の見える関係づくりが大切と学びました。

マンパワーが少ないので、住民の協力が必要です。佐多地区に伺い住民も地域ぐるみで高齢者を支援しあう様子を拝見し、住民も現状をよく理解し、向き合っており、住民同士で支えあおうという気持ちを感じました。認知症の認識に偏りのあった人もいたと思いますが、地域看護の取り組みによって、認知症の認識も改善され、住民で支えあい、行政と住民で連携が取れている様子も印象的でした。住民が自発的に行動へ移したきっかけは地域看護の取り組みと住民自身も南大隅町の高齢化率や医療機関の少ないことに不安を抱いていたため、自分たちの健康を自分で守り、支えあおうという認識ができたのではないかと

考えました。ありがとうございました。

今回の学びのまとめ

片山 葉

今回は、はじめて大隅半島の錦江町や南大隅町、そして肝属郡医師会立病院を訪れました。

以前、これからの時代の解決策は大隅にあるというお話を聞いたことがあり、今回の研修をとても楽しみにしていました。実際、在宅医療連携拠点事業に取り組み、医療や介護資源、人口減少、高齢化率などの問題を抱える中で、地域全体で地域を支えあう体制づくりを行い、その輪を広げられているというお話を伺い、驚きと共に、地域が持つ力の大きさを再認識することができました。私自身、保健師として地域で働きたいと考えています。肝属郡医師会立病院では、4人の保健師が活躍されており、はじめて行政以外の場で活躍されている保健師の役割や仕事について触れることができ、とても大きな学びとなりました。これからの医療や社会を担っていく者として、地域の人々との暮らしと医療について学び続けていきたいと思えます。

8月18日(月)～30日(土)  
今村学園ライセンスアカデミーより1名、  
給食管理学実習の研修に来られました。



実習を通して

久保 こうご

実習を通して多くのことを学びました。特に心に残ったことが、栄養室・調理室のスタッフの皆さんが、患者様のためにできることは何か、元氣になつてもらうため、おいしく食べて頂くために、様々なことに気をつけられていること。そして病棟訪問に同行させて頂いたときに、患者様から「飯がとてもおいしい、ありがとう」という言葉が飛び交っていたことです。とても良い関係だと思いました。私も、こんな関係を築くことができる栄養士になりたいと思いました。本当にありがとうございました。

## 託児所だより

### 十五夜



日本の秋の行事といえは・・・そう、お月見です。  
十五夜の月を「中秋の名月」とよんでお月見を楽しみますよね。チューリップ託児所も小さい年齢の子供たちはばかりではありませんが、感受性が豊かで肌で感じ取る大切な時期なので、季節の行事を大切にしています。もちろん、十五夜も9月9日(火)に行いました。

まず、いつもの絵本の読み聞かせから、十五夜に関するものを選び、落ち着いたところで「ベープサート」「くいしんぼうなお月さま」を保育士が披露。子供たちの目もキラキラと輝き、簡単な由来を感じ取っていました。

そこで本日のメインである十五夜相撲大会が、幕を開けました。今回は、子供たちが興味を持つてくれるように、一人ひとりに四股名を決め、手作りのまわしを締めて、相撲に臨みました。きりん部屋、うさぎ部屋、りす部屋のちびっこ力士が今か今かと待っています。四股を踏み、はっつけよい、のこつたのこつたと始まりました。白熱の取り組みで応援も盛り上がり楽しいひとときになりました。まわし姿の子どもの写真(四股名入り)と取り組みの様子を掲示したところ、保護者の方々にも大好評でした。要望に応じて、後日母の会にて取り組みのムービー試写会をする予定です。



# 職員接遇研修会

8月27日、職員の接遇向上推進を目的として、全職員を対象に毎年行っている職員接遇研修会を開催しました。今回は講師に九州東邦株式会社の日隈孝二先生を招き、患者様に対する思いを中心にお話していただきました。「患者様が期待する医療の提供を実施・実現するためには“ホスピタリティ”を仕事の中で効用すること」と日隈先生談。（“ホスピタリティ”とは相手を思いやる心、心からのおもてなし等と解されている）。

では、どのようなことがホスピタリティになるのか？

患者様が困っていること・やってほしいことに気づく心や、個々の感性を高める事で実施されるといいます。患者様は私達スタッフの言葉遣い・表情・能力・思いやりを一体となって受けとめます。これらを日々の業務の中で意識し、向上心を持って学習・努力・指導していくことが大切だと教わりました。「患者様のために何かしてあげたい」と心から感じることで患者様と私達スタッフが思っていることのギャップがないよう、ときにはこれまでの態度を振り返りながら、これからも仕事の中で“ホスピタリティ”を実施していきたいものです。

今回の研修で病院から143名、みなみかぜから34名、合計177名の参加がありました。研修後のアンケートでは、「改めて接遇の大切さを学んだ」、「目配り・気配り・思いやりを常に持って患者様の気持ちを大事にしていきたい」、「日々の業務の中で思いやりのある接遇ができているか、自分で考え直すきっかけになった」、などのコメントがあり、どの部署のスタッフも自分を振り返り、これからの接遇に対して考えるきっかけとなったのではないのでしょうか。



## 糖尿病の基礎と臨床に役立つ知識



7月14日「糖尿病の基礎と臨床に役立つ知識」と題し、鹿児島大学病院糖尿病・内分泌科の堂地ゆかり先生に特別講演をして頂きました。基礎を振り返ることができ、臨床経験年数にかかわらず、学びの多い講義であると同時に糖尿病を基礎疾患として抱えている患者様が多い当院でも、今後のケアに活かせる大変心強い内容となりました。

## 第17回

# みなみかぜ夏祭り

7月25日(金)第17回みなみかぜ夏祭りが当施設ホールにて開催されました。

今年は天候にも恵まれ、お祭りムードも最高潮！皆さんの顔に笑顔が見られました。

夏祭り最初の出し物は、みなみかぜ入所者様による楽器演奏「われは海の子」でした。毎週土曜日に少ない時間の中で練習し、素晴らしい演奏をして下さいました。また来年も楽しみにしております。



肝属郡医師会立病院・託児所の子ども達がお遊戯を披露して下さいました。かわいい子ども達が一生懸命踊る姿に利用者様も大喜びでした。



『ムル・みなみかぜ』みなみかぜ職員から選出された精鋭のイケメン(笑)6人組が、息の合った舞で祭りを盛り上げていただきました。



コスモス苑の皆様は息の合ったロックソーランをご披露して下さいました。大迫力のその演技に、利用者様はもちろん職員共々楽しんでいただきました。



### 【新人職員出し物】

今年の新人職員は、6人全員が男性で、それぞれに年齢や職種の違う中、限られた時間で汗たぐになり練習しました。新人チームを心配した諸先輩方から、「頑張ってください。楽しみにしていますよ。」との多数の応援を戴きました。

本番、一段高い舞台の上で無我夢中で踊りましたが、小道具で使った様々な色の発光棒が光を放つと「わあ〜きれい!」との歓声が上がリ、私達は緊張が吹き飛び笑顔で踊ることができました。

恩返しに、来年の新人職員さん達にも「頑張れ!」とエールを贈りたいと思います。



## 新人職員紹介

デイケア運転手  
上田 和美



●趣味、特技  
「ドライブ」「野球」  
「ゴルフ」「柔道」

### ●ひとこと

新しい職場でわからない事はありますが、ご指導のほど宜しくお願いします。安全運転をモットーに頑張ります。

デイケア運転手  
伊勢 太一郎



●趣味、特技  
「鶏の飼育」

### ●ひとこと

みなみかぜの運転手としてご縁をいただきました。タクシーとバスの運転経験を活かし、利用者様の安心、安全な送迎に、積極的に努めたいと思います。



来年も皆様に楽しんで頂ける夏祭りを開催出来る様頑張ります。本場にありがとうございます。

洋妙会の皆様によります日本舞踊は、『あなた尋ねて』『北海盆唄』『男の出船』の三曲を披露していただき、3曲とも目が離せないほど美しい踊りでした。大取を飾っていただきましたのは、今年も鹿児島うるまエイサーの皆様。迫力のある演奏と華麗な踊りで会場は盛り上がり、ご来場のお客様も一緒に踊られ、とても楽しい雰囲気にもまれる中、夏祭りの出し物を締めくくることができました。